

学校法人 神戸山手学園

令和元年度 事業報告書

令和2年5月

目 次

I. はじめに	
1. 令和元年度入学者の状況	1
2. 令和元年度就職・進学支援対策と卒業・進学の状況	2
II. 学校法人の概要	
1. 法人の目的	3
2. 設置する学校	3
3. 学生数	3
4. 理事及び監事	4
5. 教職員数	5
III. 事業の概要	
■神戸山手大学	
総括	6
1. 教育内容に関する事業	7
2. 教育の実施体制に関する事業	9
3. 学生の募集活動に関する事業	10
4. 学生の支援に関する事業	12
5. 研究に関する事業	15
6. 社会的活動・国際交流に関する事業	16
7. 管理運営に関する事業	18
8. 財務に関する事業	18
9. 自己点検・評価に関する事業	19
■神戸山手女子中学校・高等学校	
基本方針	21
1. 教育内容に関する事業	21
2. 教育の実施体制に関する事業	29
3. 生徒募集広報活動に関する事業	31
4. 生徒の支援に関する事業	32
5. 社会的活動・国際交流に関する事業	33
6. 管理・運営に関する事業	34
7. 財務に関する事業	34
8. 自己点検・評価に関する事業	34
IV. 財務の概要	
1. 決算の概要	36
2. 貸借対照表の概要	37

I. はじめに

1. 令和元年度入学者の状況

＜大学＞大学においては入学定員である 200 人の入学者数を目指していたが、259 人と上回り、手ごたえは感じられる入試活動になった。さらに留学生も78人から人数・比率とも減少し、日本人学生の確保に努めた。

＜高校＞普通科は外部からの入学者の確保目標を 140 人としていたが、結果は 84 人であった。音楽科は外部からの入学者の確保目標を 30 人としていたが、結果は 14 人であった。普通科は内部進学者と合わせて 104 人となり、昨年度(121 人)より 17 人減になった。音楽科は 19 人となり、昨年度(17 人)より 2 人増になった。

＜中学＞90 人の確保目標を掲げたが、結果は 18 人となった。前年度に比べ 10 人増で、前年度比、125%上回ったが、まだ定員充足には至っていない。

(学校別学生・生徒数)

■部門・学科別在学学生・生徒数 推移【5月1日付】(H17～R元)

※毎年5月1日現在の数値(単位:人)

区分	学科	学年	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	増減
大学	大学合計	1年	111	92	77	71	76	74	39	100	77	52	80	147	145	260	259	▲1
		2年	102	96	87	74	69	67	67	36	85	66	156	74	136	136	239	103
		3年	112	97	103	89	78	67	66	80	41	87	204	148	86	137	137	0
		4年	157	139	113	121	101	89	76	69	83	50	237	225	172	87	141	54
		合計	482	424	380	355	324	297	248	285	286	255	677	594	539	620	776	156
短大	短大合計	1年	294	277	245	255	240	195	173	135	110	99	83	91	51	-	-	-
		2年	270	274	277	248	255	236	189	162	127	103	102	81	85	52	4	▲48
		合計	564	551	522	503	495	431	362	297	237	202	185	172	136	52	4	▲48
高校	高校合計	1年	132	147	158	154	142	210	171	177	142	176	159	130	154	138	123	▲15
		2年	127	128	139	155	150	137	204	167	173	137	170	152	122	151	133	▲18
		3年	138	123	126	135	151	147	131	203	164	169	133	168	151	119	149	30
		合計	397	398	423	444	443	494	506	547	479	482	462	450	427	408	405	▲3
中学	普通科	1年	71	74	130	96	110	87	80	63	41	54	44	26	19	8	18	10
		2年	64	69	73	130	97	108	86	81	64	40	54	38	25	17	8	▲9
		3年	73	63	70	72	128	95	106	85	78	63	41	53	34	25	17	▲8
		計	208	206	273	298	335	290	272	229	183	157	139	117	78	50	43	▲7

学園総合計	1,651	1,579	1,598	1,600	1,597	1,512	1,388	1,358	1,185	1,096	1,463	1,333	1,180	1,130	1,228	98
																▲235
																48

対前年度差	▲77	▲72	19	2	▲3	▲85	▲124	▲30	▲173	▲89	367	▲130	▲153	▲50	98
対前年度比	-4.46%	-4.36%	1.20%	0.13%	-0.19%	-5.32%	-8.20%	-2.16%	-12.74%	-7.51%	33.49%	-8.89%	-11.48%	-4.24%	8.67%

2. 令和元年度就職・進学支援対策と卒業・進学の状況

(1) 令和元年度就職・進学支援対策

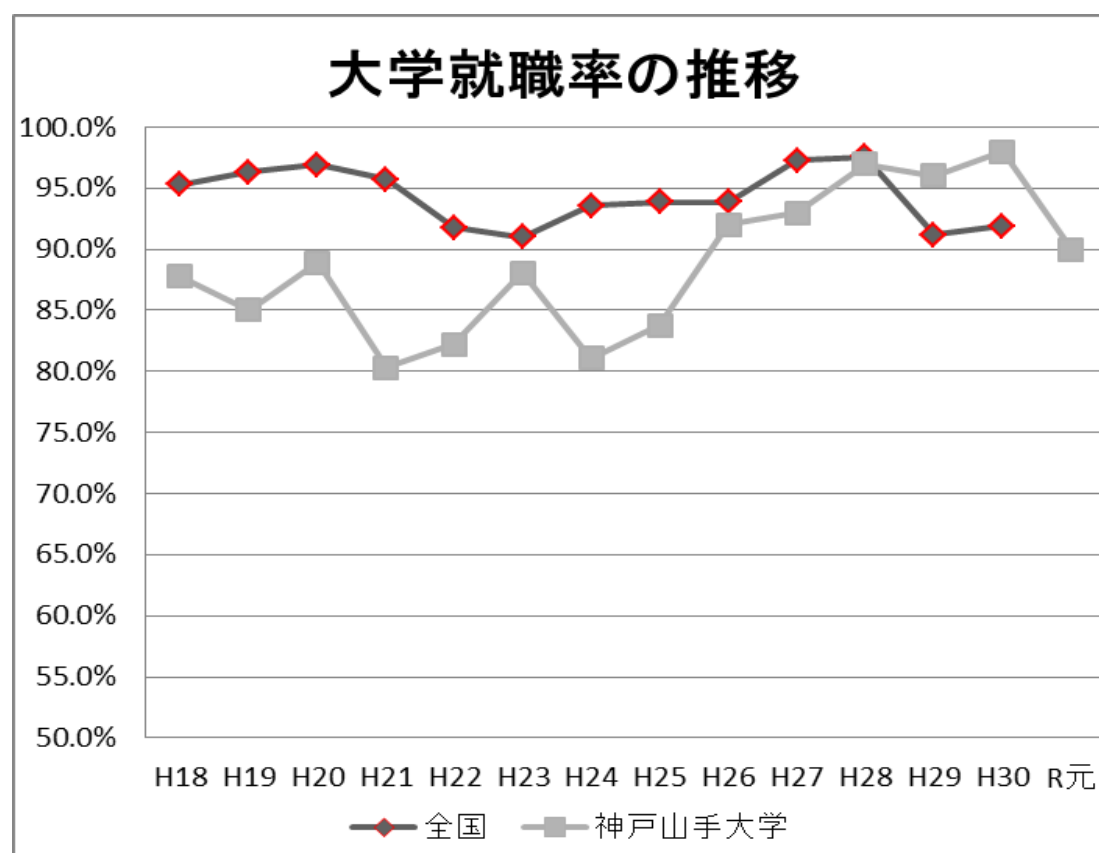
近年の就職率と就職希望率の推移は、令和元年度は就職希望率が過去 5 か年で最高となった。一方、就職率はこれまで 3 年連続で上昇し、前年度は 96%に達したものの、本年度は 90%と減少した。売手市場ではあるが、キャリア教育を含む就職支援体制の在り方を常に検討しつつ、キャリアセンターを中心とした教職協働体制を維持していく。

高校における進学対策については、センター受験者、一般入試受験者を増やし、積極的にチャレンジする受験指導を続けている。大学合格状況については、国公立大学合格は増加したが、関関同立レベル、産近甲龍レベルの合格者数は、若干減少した。

(2) 就職・進学の状況

<大学>就職希望率は 83%と前年を上回り、就職率は 90%と減少した。

<高校>国公立大、難関私立大学については、普通科は、国立 1 人(前年度 4 人)、公立 5 人(前年度 2 人)であるが、関関同立は 7 人(前年度 8 人)、産近甲龍は 21 人(前年度 20 人)であり、合格者数が若干減少した。音楽科は公立が 1 人(前年度 2 人)であった。



Ⅱ. 学校法人の概要

1. 法人の目的

この法人は、教育基本法、学校教育法及び私立学校法に従って、学校教育を行い知性の錬磨と情操の陶冶を通じて、社会に対して有為の人材を育成することを目的とする。

2. 設置する学校

(1) 大学

神戸山手大学	現代社会学部	総合社会学科 観光文化学科 都市交流学科
--------	--------	----------------------------

(2) 短期大学

神戸山手短期大学	現代生活学科
----------	--------

(3) 高等学校

神戸山手女子高等学校	全日制課程 普通科 全日制課程 音楽科
------------	------------------------

(4) 中学校

神戸山手女子中学校

3. 学生数

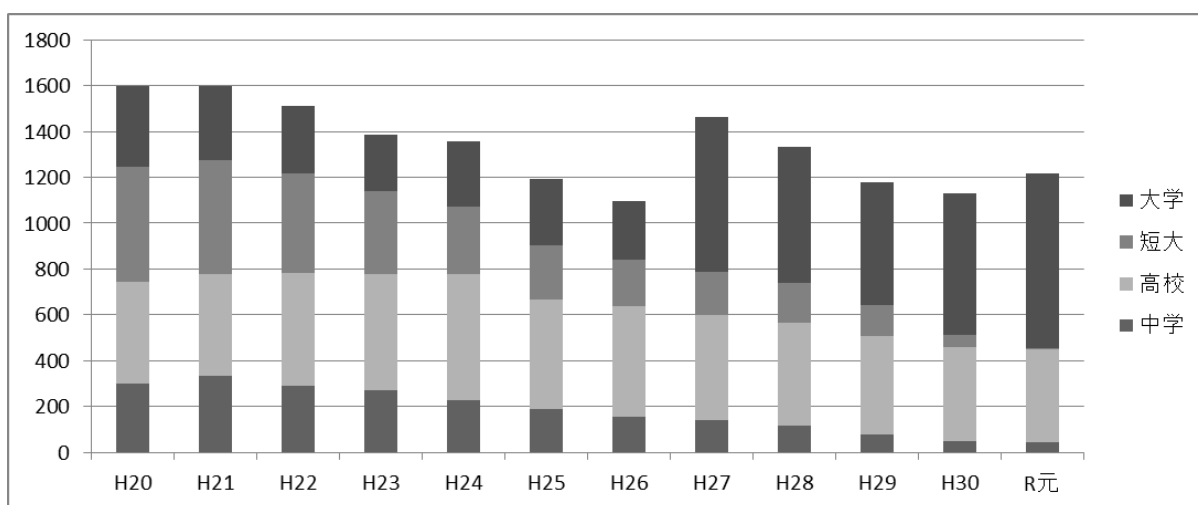
(1) 学生・生徒数

(令和元年5月1日現在)

学 校	学 部	学 科	入学・募集定員	収容定員	学生・生徒数
神戸山手大学	現代社会学部	総合社会学科	80人	340人	376人
		観光文化学科	120人	480人	399人
		都市交流学科	0人	0人	1人
大学 計			200人	820人	776人
神戸山手短期大学	—	現代生活学科	0人	0人	4人
短期大学 計			0人	0人	4人
神戸山手女子高等学校	—	普通科	250人	—	348人
		音楽科	40人	—	57人
高等学校 計			290人	—	405人
神戸山手女子中学校	—	普通科	250人	—	43人
中学校 計			250人	—	43人

(2) 学生・生徒数の推移

(各年度とも5月1日現在)



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
中学	298	335	290	272	229	189	157	139	117	78	50	43
高校	444	443	494	506	547	479	482	462	450	427	408	405
短大	503	495	431	362	297	237	202	185	172	136	52	4
大学	355	324	297	248	285	286	255	677	594	539	620	766
学園総合計	1,600	1,597	1,512	1,388	1,358	1,185	1,096	1,463	1,333	1,180	1,130	1,228

4. 理事及び監事

(令和元年5月1日現在)

区分	氏名	定員	現員
理事長代行	楠見 清	1	1
第1号理事	齋藤 富雄	3	3
	石井 富久		
	平井 敬員		
第2号理事	楠見 清	2	2
	前田 大		
第3号理事	楠 守雄	6	6
	杉原 左右一		
	表具 喜治		
	佐久川 昌彦		
	良河 文代		
	住本 敦美		
監事	竹元 忠嗣	2	2
	藤本 義兼		

5. 教職員数

(1) 教員数

神戸山手大学

(各部門とも5月1日現在)

(単位:人)								
現代社会学部	専任					兼任	任期制 助手	合計
	教授	准教授	講師	助手	計			
総合社会学科	6	5	2	0	13	40	0	53
観光学科	13	6	3	0	22	18	0	40
計	19	11	5	0	35	58	0	93

神戸山手短期大学

現代生活学科	専任					兼任	任期制 助手	合計
	教授	准教授	講師	助手	計			
	1	0	0		1	3	0	4
計	1	0	0	0	1	3	0	4

神戸山手女子高等学校

普通科	専任			兼任	合計
	専任教諭	常勤講師	計		
	24	7	31	15	46
音楽科	3	2	5	33	38
計	27	9	36	48	84

神戸山手女子中学校

普通科	専任			兼任	合計
	専任教諭	常勤講師	計		
	10	0	10	0	10

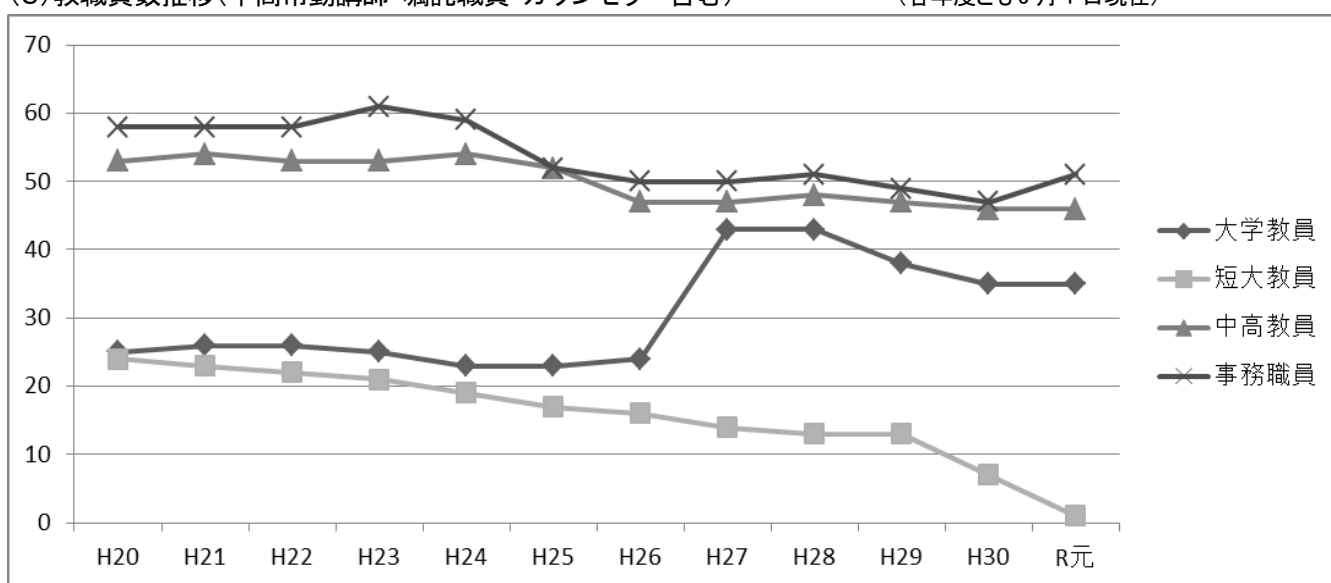
(2) 職員数

(5月1日現在)

区分	大学	短期大学	高等学校	中学校	本部	合計
専任職員	28	0	7	3	0	38
嘱託職員	10	0	1	0	2	13
臨時職員	13	0	3	1	0	17
派遣職員	1	0	0	0	4	5
計	52	0	11	4	6	73

(3) 教職員数推移(中高常勤講師・嘱託職員・カウンセラー含む)

(各年度とも5月1日現在)



	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
大学教員	25	26	26	25	23	23	24	43	43	38	35	35
短大教員	24	23	22	21	19	17	16	14	13	13	7	1
中高教員	53	54	53	53	54	52	47	47	48	47	46	46
事務職員	58	58	58	61	59	52	50	50	51	49	47	51

Ⅲ. 事業の概要

■ 神戸山手大学

【 総 括 】

平成 27 年度に策定された「神戸山手学園経営改善計画」(平成 27 年度～平成 31 年度の 5 か年計画)に即して、これまで 4 年間にわたり、その着実な実施を心がけ、学生確保を中心として抜本的改革に取り組んできた。

しかしながら、平成 31 年度末における財務上の目標達成は困難となり、新たな計画策定を進めていたところ、平成 30 年 6 月 12 日より、関西国際大学を設置する学校法人濱名学院と本学の設置者である学校法人神戸山手学園との間で、法人合併を前提とする協議が重ねられ、平成 31 年 3 月 22 日に両法人間で「合併契約書」の締結に至った。その後、認可申請書類を提出し、令和 2 年 4 月 1 日付での「神戸山手大学現代社会学部設置者変更」が認可されるとともに、令和 2 年 4 月 2 日付での「学校法人合併」が認可された。

これに伴い、本年度の事業計画を見直し、令和 2 年度からの「現代社会学部設置者変更認可」による関西国際大学への統合と、「学校法人合併認可」による学校法人濱名山手学院の円滑なスタートに向けた準備年度と位置づけ、各事業を推進した。

また、平成 27 年度設置の「観光文化学科設置計画履行状況等(AC)調査」において、指摘事項(是正)を受け、是正を求められていた専任教員配置についてもその改善が確認され、令和 2 年 3 月 31 日付にて是正対象大学から除外の旨の調査結果通知を受けた。

その上で、令和 2 年 4 月 1 日付で廃止すべく「神戸山手大学の廃止認可申請書類」を提出し、21 年の歴史に幕を閉じるとともに、関西国際大学に継承されることとなった。

学生確保

令和元年 6 月 6 日に「神戸山手大学現代社会学部の設置者変更認可申請書類」及び「神戸山手大学現代社会学部の設置者変更に係る寄付行為変更認可申請書類認可申請書類」を文部科学省に提出し、令和元年 9 月 11 日付で認可された。これを受け、「関西国際大学現代社会学部」として令和 2 年度の学生募集を行った。関西国際大学入試課が展開する募集活動事業を入学センターが一体的かつ全面的に協力実施するという形で取り組んだ。

「認可申請手続」上の様々な制約を抱えての学生募集活動であったが、令和 2 年度の現代社会学部入試の志願者数は 312 人(48.6%)増の 954 人(R 元:642 人)、合格者数は 494 人(R 元:312 人)、入学者数は 222 人(R 元:259 人)と、2 年連続で目標値達成という結果となった。

さらに、課題であった入学者数に占める留学生数も 44 人(19.8%)となり、過去 3 ヶ年の推移<64 人(44.1%)→120 人(46.2%)→78 人(30.1%)>と比較し、人数、比率とも大きく抑制することができた。

この結果、現代社会学部としての収容定員充足率が 101.4%(832 人)となり、令和 2 年度において、ようやく待望の目標達成の見通しがついたところである。

教育改革

総合社会学科については、平成 29 年度入学生から 4 フィールド体制にカリキュラムを再編し、引き続き、

教育改善に努めている。一方、観光学科については、観光の文化的・人文科学的な印象が強調されるあまり、実際の教育内容の拡がりを認識しにくい名称となっていることから、本学の観光教育の実践的な内容を明確に表現するものとして、令和元年度より「観光文化学科」から「観光学科」へ学科の名称を変更した。

しかし、次年度からの関西国際大学への統合を契機に、関西国際大学の先進的な教学マネジメントシステムによる教育の質保証への取組への対応が不可欠であり、本学が立ち遅れている面が多々ある。この認識の基、本年度は関西国際大学の FD 研修会や PD 研修会等に参加し、理解促進に努めた。

さらに、前年度に試行的に実施した、研究・教育・管理運営・社会貢献の 4 つの評価基準のウエイト付けによる目標管理を主軸にした「教員評価制度」についても、関西国際大学への統合に向けての準備もあり、本年度の実施を見送った。

進路指導

「キャリアセンター」の下で、学生のキャリアサポート体制の構築と進路指導の拡充を図った。特に、アセンブリーアワーを活用した就職活動セミナー等の実施やインターンシップの拡充、合同企業説明会へのバスツアーの実施などに努めたこともあり、景気の回復の兆しも見られる中で、就職率は本年度も 90%を超えることができた。

研究・社会活動

両学科あわせて 35 名の専任教員数であるが、地域連携や外部発信につながる研究・社会活動を展開した。研究業績でも、科学研究費補助金の採択や受託研究など外部資金の確保を目指した。また、全国高等学校観光選手権大会の開催や国土交通省の委託事業など、幅広い活動を展開した。

その他

1 号館の耐震工事に、平成 28 年度から着手し、4 期目の本年度は南館 2 階・3 階の耐震補強工事を実施した。

1. 教育内容に関する事業

(1) 教育の充実について

以下の事業に重点的に取り組んだ。

- ① 『学生便覧』(授業計画・シラバス・実務家教員項目の設定)の充実→Web シラバス
- ② オリエンテーションの円滑実施
- ③ 欠席調査拡充による学生への修学指導の充実化
- ④ 単位の実質化への対応(授業週数の確保等)
- ⑤ 授業時間割編成の改善
- ⑥ 留学生及び編入学生への支援
- ⑦ アセンブリーアワーの活用
- ⑧ 継続的な FD 活動等を通じた改善
→「学生による授業評価アンケート調査」の継続実施による改善

(2) 事務部署との連携等による教育改善

- ① 常設委員会や関係部署との連携による教育改革の推進
- ② 学生指導における連携強化
- ③ 資格取得ニーズへの対応

本年度の資格・検定等の取得状況は〔表 1-1-1〕、〔表 1-1-2〕の通りである。

〔表 1-1-1〕: 本学で所定の単位を修得すれば取得可能な資格の取得実績

資格・検定等名称	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元
教育職員免許状(高 1 地歴・中 1 社会)	0	4	4	6	4	2				

二級建築士及び木造建築士受験資格	2	5	2	3	5	8	7	3	3	5
一級建築士受験資格				2	3	0	0	1	0	0
建築施工管理技士受験資格				0	0	0	0	0	0	0
社会調査士				4	4	1	4	5	5	5
商業施設士受験資格	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
商業施設士補	0	2	0	0	0	0	0	0	1	2
ISO14001 内部環境監査員	21	18	19	22	24	25	24	26	27	32
認定心理士							7	3	1	5
学芸員							2	1		

[表 1-イ②: 本学で関連科目等を開講している資格・検定資格実績一覧]

資格・検定等名称		H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元
秘書検定	2 級	2	10	5	3	4	8	3	3	2	5
	3 級	2	6	6	10	2	2	1	1	2	2
ビジネス文書検定	3 級	1	2	2	1					0	
ビジネス電話検定								2		1	
ユニバーサルマナー検定	3 級							6		0	
ビジネス実務マナー検定	2 級							2	0	1	
	3 級							17	11	21	
サービス接客検定	2 級						1	1		0	
	3 級						1	0		0	
話しことば検定	3 級	1	1	1							
環境社会(eco)検定			4	9	2						1
環境管理士検定	3 級					1					
色彩検定	2 級	1	6	1	1	3	2	2	1		2
	3 級	1	9	3	8	9	5	2	2		
福祉住環境コーディネータ	2 級	3	1		1			0			
	3 級	6	2	2	4	2		3			
リビングスタイリスト	2 級		7		2	7	1	5	2		
住宅建築コーディネーター											1
インテリアコーディネーター				1			1				
カラーコーディネータ	3 級				1						
MOS 検定			8								13
IT パスポート								0			
漢字検定	準 2 級			1							
	2 級			1							
実用英語検定	2 級	2					1		1		
	準 2 級								2		
観光英語検定								1			1
HSK 中国語検定	1 級										1
	2 級						3	0	2		
	3 級						2	0	1		
	4 級								1		
	5 級						1				2
日本語能力試験 1 級	1 級						1		2		
	2 級								0		
ハンゲル能力検定											1

総合旅行業務取扱管理者						1				
国内旅行業務取扱管理者	4		1	1		2	1	2		
情報処理技術者							0			
TOEIC	1				2	19	12	16	26	36
医療事務技能審査試験		1					1			
CSR 検定試験	1									
宅地建物取引主任者			1				0	1		1
簿記検定	2 級						1			1
ファイナンシャルプランニング技能検定							1	1		
防火・防災管理者							29	6		
神戸学検定		1	1				1			
世界遺産検定	2 級						0	1		2

2. 教育の実施体制に関する事業

(1) 教員の組織体制

各学科の教育活動に支障が出ないよう、教員体制の整備に努めているが、平成 27 年度に開設した観光学科は、平成 30 年度の完成年度における専任教員数 23 名が未充足として、「観光文化学科(現:観光学科)設置計画履行状況(AC)調査」において指摘(是正)を受けていたため、平成 31 年 3 月 31 日をもって定年退職した教員を令和元年 10 月 1 日付にて特任教授として再雇用し、〔表 2-イ〕の通り、専任教員数の充足を図った。

〔表 2-イ:令和元年 10 月 1 日現在の教員数〕 ()内は大学設置基準上の必要専任教員数

学 部	学 科	専 任 教 員 数					兼任教員数
		教 授	准教授	講 師	助 教	合 計	
現代社会学部	都市交流学科	-()	-	-	-	-()	63
	総合社会学科	6(5)	5	2	0	13(9)	
	観 光 学 科	14(5)	6	3	0	23(10)	
	大学全体	-(8)	-	-	-	-(15)	
大 学 合 計		20(18)	11	5	0	36(34)	63

(2) 教育研究・学習環境の整備

① 施設整備事業

- 1号館第Ⅳ期耐震補強工事(1号館2階・3階西部分)

→文部科学省の「令和元年度私立学校教育研究装置等施設整備費」として 84,149 千円の補助金交付を受けた

- 4号館火災感知器取替工事(4202室～4214室)
- 4号館空調更新工事(4206室～4209室)
- 2号館雨水湧水ポンプ取替工事
- 1号館空調修理(1435室)

② 図書館に関する事業

- 学習支援事業の実施
- 図書館利用教育の実施:年間 19ゼミ 260名
- 『紀要(第 21号)』の発行及び紀要論文の PDF ファイル化の継続
- 学生 Web 選書ツアー実施:参加学生のべ 6名、選書数 35冊

- ブックリサイクルの企画実施:年 4 回
- 図書館だより『すわやま』(第 30 号)の発行
- 『図書館年次報告書 2019』作成

(3)危機管理対策

- ① 学生教育研究災害傷害保険への加入
- ② 海外語学研修旅行における団体保険への加入
- ③ 神戸市依頼による避難所としての備蓄品(水・パン・携行トイレ等)の受入れ
- ④ 危機管理マニュアル(事象別マニュアルを含む)の検証

神戸市中央消防署の指導のもと、令和元年 9 月 20 日に 3 号館において、消防訓練(放水訓練・消火機器取扱訓練)を実施し、危機管理マニュアルを検証した。

(4)省エネ対策その他

平成 27 年度までは、環境管理委員会を中心に ISO14001 マニュアルに沿って省エネルギー対策を進めてきたが、平成 28 年 2 月 17 日をもって ISO14001 の審査登録契約を解除したため、平成 28 年度以降は自主的な管理体制をとっている。学生数は増加しているが、電気・ガス・水道の使用量はすべて 3 年連続で減少し、料金についても減額となった。これは、併設短期大学の施設である 2 号館の使用が、留年学生 2 名のための授業であったため、かなり限定的な使用となり、結果的に減となったものである。

- 電気料金、使用量(前年との対比) : 354.3 万円減、使用量 89,968kwh 減
- ガス料金、使用量() : 63.7 万円減、使用量 7,669 m³減
- 水道料金、使用量() : 25.4 万円減、使用量 927 m³減

3. 学生の募集活動に関する事業

(1)入試結果概要

令和 2 年度現代社会学部の入学試験結果は〔表 3-イ〕、〔表 3-ロ〕、〔表 3-ハ〕、〔表 3-ニ〕の通りである。

「現代社会学部の設置者変更認可」申請手続の関係から、学生募集活動の本格的な実施が 9 月 11 日以降となり、出遅れが心配されたが、志願者数は、前年度を大きく上回り、過去 11 年間における最多記録となった。これは、関西国際大学における多彩な他の 5 学部との併願受験を可能にした入試制度によるところが大きいと考えられる。このため、合格者数も増加しているものの、入学率は減少した。

結果的に入学者数は目標通りとなったが、その要因としては、近年の【私立大学における定員管理の適正化(厳格化)】の指導徹底による影響が大きいところであるが、6 学部体制による入学者選抜方法の多様化とともに関西国際大学の様々な教学マネジメントシステムの先進的な取組も複合的に作用しているものと考えられる。

また、懸案事項であった留学生の受入れについても、〔表 3-ニ〕の通り、令和 2 年度入学者数に占める留学生比率を 20%以内に抑制することができた。

〔表 3-イ:令和 2 年度入試結果〕

区 分		入学定員	志願者数	入学者数	対前年度増減数	入学定員充足率
現代社会学部	総合社会学科	80	487	106	-19	132.5%
	観光学科	120	467	116	-18	96.7%
	合計	200	954	222	-37	129.5%
	3 年次編入学 総合社会学科	10	4	1	-13	10.0%

〔表 3-ロ:入学定員・収容定員充足率推移〕

区 分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元	R2
入学定員	110	110	110	110	110	220	220	200	200	200	200
入学者数	74	39	100	77	52	80	147	145	260	259	222

充足率	67%	35%	90%	77%	47%	36%	66%	72%	130%	129%	111%
収容定員	640	554	504	460	460	1,010	980	910	860	840	820
在籍者数	297	248	285	286	255	677	578	542	623	777	832
充足率	46%	44%	56%	62%	55%	67%	58%	59%	72%	92%	101%

[表 3-ハ:入学率推移]

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
志願者数	104	85	144	102	78	125	185	208	383	642	954
合格者数	96	73	136	98	73	119	175	182	311	312	494
入学者数	74	39	100	77	52	80	147	145	260	259	222
入学率(%)	77.1	53.4	73.5	78.6	66.7	64.0	79.4	79.7	83.6	83.0	44.9

[表 3-ニ:外国人留学生入学者数及び全入学者に占める留学生比率]

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R2
入学者数	4	3	38	28	8	26	33	64	120	78	44
留学生比率(%)	5.4	7.7	38.0	36.4	15.4	32.5	22.4	44.1	46.2	30.1	19.8

(2) 学生募集活動

- 高校等訪問、資料請求者、オープンキャンパス来場者

令和元年度の学生募集活動については、関西国際大学の入試課と一体的に取り組んだ。

特に、主に高校・通信制高校のサポート校・日本語学校・学習塾等の訪問や進学ガイダンスを担当する入学アドバイザー(学生募集担当職員)を配置し、高校訪問等の強化に継続的に努めてきたところであるが、年度途中で1名が退職したため、件数としては[表 3-ホ]の通り減少した。

しかしながら、[表 3-ヘ]、[表 3-ト]に示した通り、オープンキャンパス来場者数は減少し、資料請求者数もほぼ前年度並みで推移する中、志願者数が増加した要因の一つとしては、入学アドバイザーの丁寧なフォローによるきめ細かな学生募集広報活動が功を奏した面があると考え。

[表 3-ホ:高校訪問等の延べ件数]

対象区分 年度	高等学校	通信制サポート校	日本語学校	学習塾	校内ガイダンス	合計
H28	908	210	213	134	149	1,610
H29	1,086	215	322	65	272	1,960
H30	1,212	98	207	35	282	1,834
R元	1,038	75	167	25	65	1,370

※)平成 25 年度(363 件)、平成 26 年度(357 件)、平成 27 年度(1,832 件)

[表 3-ヘ:資料請求者数推移]

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
資料請求者数	3,939	4,773	4,179	4,068	4,279	4,262	4,916	2,782	2,760	3,308	3,530

[表 3-ト:オープンキャンパス来場者数推移]

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R元
来場者数	182	141	188	189	221	232	526	540	837	513	376

- 入学者、志願者及びオープンキャンパス来場者の数値相関係

[表 3-チ]に詳細を示すが、高校 3 年生のオープンキャンパス来場者(シニア及び留学生を除く)の 32.5%(前年度:35.6%)は入学しており、入学者の 55.4%(前年度:55%)がオープンキャンパスに来場している。

また、併設校推薦入試・指定校推薦入試(I期)による入学者に限定するとその 62.2%(前年度:50.9%)がオープンキャンパスに来場している。

[表 3-1:入学者(R2.3.26 現在)、志願者および OC 参加者の数値の相関] (単位:人、%)

入試種別	★令和元年度			★H31年度			A-B	OC 参加者 C	OC 参加率 C/A	関係数値
	総合 社会	観光	合計 A	入試種別	総合社会 観光	合計 B				
併設・指定Ⅰ期	18	19	37	併設・提携・指定Ⅰ期	25	25	12	23	62.2%	①OC参加総数に占める入学者数 ・OC3年生参加者157名(A) (のべ) ・OC3年生参加入学者87名(B) ・OC参加者入学率(B)/(A) 55.4%
指定Ⅱ期		35	35	提携・指定Ⅱ期	9	32	3	3	8.6%	
マッチング 前期	8	8	16	提携・指定Ⅲ期	23					
				アサーティブA	9	24	△ 8	16	100.0%	
				パフォーマンスA	8					
AOⅠ	7									
マッチング 後期	9	7	16	アサーティブB	9	37	△ 21	12	75.0%	②入試種別の入学者に占めるOC参加者 入試 入学者 OC参加者 (a)/(b) 種別 (a) (b) 指定等 72 26 36.1% マッチング 32 28 87.5% 推薦 27 15 55.6% 一般 51 8 15.7% 計 182 77 48.7% ※留学生を除く
				アサーティブC	5					
				パフォーマンスB	3					
				パフォーマンスC	0					
				パフォーマンスD	0					
				AOⅡ	10					
				AOⅢ	4					
AOⅣ	6									
公募(前期A)	9	3	17	公募(A)	10	10	7	12	70.6%	
公募(前期B)	5	0		公募(B)	12	12	△ 2	3	30.0%	
公募(後期)	5	5	10	シニア50+・社会人Ⅰ	1	1	△ 1	0		
社会人(前期)	0	0	0	シニア50+・社会人Ⅱ	0	0	0	0		
社会人(後期)	0	0	0	シニア50+・社会人Ⅲ	0					
一般(前期A)	28	6	34	一般(A)	17	17	17	7	20.6%	
一般(前期B)	10	2	12	一般(B)	13	13	△ 1	0	0.0%	
一般(中期)	3	0	3	一般(C)	0	0	3	1	33.3%	
一般(後期)	2	0	2	一般(D)	10	10	△ 8	0	0.0%	
留学生(前期)	13	30	43	留学生Ⅰ	58	58	△ 15	10	23.3%	
留学生(後期A)	0	0	0	留学生Ⅱ	18	18	△ 18	0	0.0%	
留学生(後期B)	1	0	1	留学生Ⅲ	2	2	△ 1	0	0.0%	
合計	111	115	226	合計	259	259	△ 33	87	32.6%	

※OC参加者数については「尼崎Cのみ参加」「三木Cのみ参加」を含む

4. 学生の支援に関する事業

本年度も、学生の満足度向上を目標に置き、様々な支援を展開した。

(1) 学生生活支援

① 障がい学生支援:

→聴覚障がい学生に対して受講時にノートテーカーを配置

→発達障がいを含め、さまざまな障がいを有する学生への支援が継続課題として残った

② 社会人学生支援:シニア学生交流室の継続設置

③ 外国人学生支援:

- これまでの留学生の在籍状況は、〔表4-イ〕の通りであり、学生課及び国際交流センターを中心に支援展開
- 学納金未納者への指導(延納・分納者 154 名中、112 名が留学生)
- 在籍確認による退学・除籍防止
- 日本語能力のさらなる向上への支援

〔表 4-イ:外国人学生在籍状況〕 (各年度 5 月 1 日現在の在学者数)

年度 学年	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元
1 年	28	8	26	43	64	121	79
2 年	28	26	32	36	31	61	110
3 年	10	26	44	22	36	37	66
4 年	9	10	40	33	42	33	39
合計	75	70	142	134	173	252	294
国別 内訳	中国 73 モンゴル 1 ベトナム 1	中国 68 モンゴル 1 ベトナム 1	中国 119 韓国 3 台湾 6 ベトナム 8 ネパール 5 スリランカ 1	中国 99 韓国 3 台湾 2 ベトナム 22 ネパール 6 モンゴル 1 カンボジア 1	中国 96 韓国 2 台湾 2 ベトナム 59 ネパール 9 インドネシア 1 ミャンマー 1	中国 118 ベトナム 111 ネパール 13 モンゴル 3 台湾 3 インドネシア 1 タイ 1 ロシア 1 キルギス 1	ベトナム 149 中国 121 ネパール 12 モンゴル 3 台湾 3 インドネシア 1 タイ 1 ロシア 1 ミャンマー 1 インド 1 韓国 1

④ メンタルケアを要する学生への支援:

学生相談室における個別的、緻密な対応をベースに、保健室の看護師やゼミ担当教員、職員と保護者が連携し支援の拡充に努めた。学生相談室の利用件数は〔表 4-ロ〕の通りであるが、留学生の増加、相談日の縮小(週 5 日開室を週 4 日へ)、学生気質の変化(相談や支援が必要な学生が来談しない)など、継続課題も残った。

〔表 4-ロ:学生相談室年間利用件数推移表〕 ※併設短大との合計数値である

年度	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元
利用件数	593	447	600	511	600	573	578	286	433	409

⑤ 経済的困窮学生への支援:

⑥ 〔表 4-ハ:奨学金受給者・学費延分納者状況表〕

区分	種 類	人 数				
		H27	H28	H29	H30	R1
奨 学 金	日本学生支援機構 第一種	4	2	8	28	67
	日本学生支援機構 第二種	9	11	8	40	127
	日本学生支援機構 給付	—	—	—	4	10
	神戸山手大学奨学金 貸与	1	3	1	2	4
	神戸山手大学奨学金 給付				1	1
	神戸山手大学特待生奨学金	6	6	6	6	6
	神戸山手大学 育友会奨学金	1	2	2	4	4
	神戸山手学園 友松会奨学金	0	0	0	0	0
	遠隔地下宿生奨学金	11	9	4	10	8
	ファミリー奨学金	2	1	7	0	2

	シニア奨学金・社会人奨学金	33	14	6	3	22					
	日本学生支援機構 私費外国人留学生学習奨励費	0	0	0	0	2					
	兵庫県私費外国人留学生奨学金	0	0	0	0	2					
学費	延納	88	88	107	149	98	142	80	176	25	154
	分納	53		42		44		96		129	

(2) 修学支援

修学面においてはゼミ担当教員と教務課、学生課、キャリアセンター、共同研究室のスタッフが連携を密にし、きめ細かな指導を展開した。本年度の退学・除籍者は〔表 4-ニ〕の通りである。学部全体の退学・除籍率は、平成 24 年度以降 11.9% (34 人)→9.4% (27 人)→9.0% (23 人)→6.8% (46 人)と 3 年連続で減少していたが、平成 28 年度 7.4% (44 人)、平成 29 年度 9.1% (49 人)と 2 年連続で上昇し、前年度は経営改善計画上の目標値 (6.8%) を達成したものの、本年度は 7.7% (60 人) と上昇した。欠席調査の拡充による早期の指導が功を奏した面がある一方で、〔表 4-ホ〕に示した通り、学費未納による除籍 (22 人)、全学生を通じての学修意欲の低下 (8 人) という点など、継続的な課題といえる。

〔表 4-ニ:退学・除籍状況〕

※令和 2 年 3 月 31 日付

区分	学部・学科	1 年	2 年	3 年	4 年	合計	退学・除籍率
退学者数	総合社会学科	9	8	2	2	21	5.5%
	観光文化学科	4	6	3	4	17	4.2%
	都市交流学科	—	—	—	0	0	0%
	学部全体	13	14	5	6	38	4.9%
除籍者数	総合社会学科	0	2	2	3	7	1.8%
	観光文化学科	2	11	1	1	15	3.7%
	都市交流学科	—	—	—	0	0	0%
	学部全体	2	13	3	4	22	2.8%
合計	総合社会学科	9	10	4	5	28	7.4%
	観光文化学科	6	17	4	5	32	8.0%
	都市交流学科	—	—	—	0	0	0%
	学部全体	15	27	8	10	60	7.7%
	退学・除籍率	5.8%	11.3%	5.8%	7.0%	7.7%	

(H30 年度 6.8%)

〔表 4-ホ:退学・除籍理由〕

除籍※	22
家庭の事情	3
修学意欲の低下	8
就職	9
他の教育機関への進学	6
心身に関する事情	7
懲戒	1
ビザ停止	3
留学	1

※除籍はすべて学費未納であるが、付随する理由として修学意欲の低下、就職、所在不明、家庭の事情等がある

(3) 就職・進路支援体制

近年の就職率と就職希望率の推移は、〔表 4-へ〕に示した通りであるが、令和元年度は就職希望率が 73% に低下したが、11 名のシニア学生が含まれているためである。一方、就職率はこれまで 3 年連続で 96%～97% で推移していたが、本年度は 91% と微減した。売手市場ではあるが、キャリア教育を含む就職支援体制の在り方を常に検討しつつ、キャリアセンターを中心とした教職協働体制を維持していく。

〔表 4-へ:就職・進路状況〕

区分	年度											
	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元
卒業 者 数	89	71	70	62	50	67	40	197	186	159	71	107
就 職 希 望 者 数	71	45	42	37	37	40	24	151	162	127	58	78
就 職 者 数	57	37	37	30	31	30	22	141	157	123	56	71
就 職 希 望 率 (%)	80	63	60	60	74	52	60	77	75	79	81	73
就 職 率 (%)	80	82	88	81	84	75	92	93	97	97	96	91

5. 研究に関する事業

(1) 外部研究資金の活用

① 科学研究費

平成 31 年 4 月 1 日における研究代表者の新規採択は 2 件、継続採択は 4 件、延長 1 件であった。下表の通り、直接経費は 4,800,000 円、間接経費は 1,440,000 円であった。

また、令和元年 9 月 12 日に「研究機関における公的研究費の管理・監査のガイドライン」、「科学研究費公募要領」等の説明会を開催した。なお、令和 2 年度科学研究費の申請件数は 9 件である。

	研究者名	研究課題	直接経費(円)	間接経費(円)
延長	松本 亮	基盤研究C エニセイ川流域諸民族の言語接触に関する基礎研究	—	—
継続	蝦名 大助	挑戦的研究(萌芽) カムサ語の動詞構造の研究	1,600,000	480,000
	高根沢 均	基盤研究C イタリアの初期中世教会堂建築における求心的空間の意義とその構成手法に関する研究	500,000	150,000
	橘 セツ	基盤研究B (分担) 場所・物質・人の関係性に注目した知の形成に関する地理学 史研究	100,000	30,000
	佐伯 恵里奈	基盤研究C タスクセット表象の形成・制御における言語の役割について の認知心理学的検討	1,200,000	360,000
新規	永井 純一	若手研究 音楽の祝祭化と地域振興のジレンマ	1,000,000	300,000
	八木 寛之	若手研究 エスニック・ビジネスの地域的展開に関する都市社会学的研 究	400,000	120,000
		計	4,800,000	1,440,000

② 受託研究:継続が 1 件であった。

	研究者名	委託者名	研究題目	研究経費(円)
継続	西村 典芳	Seabird	スポーツイベントに活用するアプリの調査	—

③ 受託事業:国土交通省観光庁より 700 万円、豊岡市商工会から 50 万円の事業委託を受けた。

代表者名	委託者名	受託事業名	事業費(円)
小野田 金司	国土交通省観光庁	平成 31 年度「産学連携による観光産業の中核人材育成・ 強化事業」ツーリズムプロデューサー養成課程	7,000,000

山下 紗矢佳	豊岡市商工会	広域振興等地域活性化事業のうち商工会産学連携支援事業の円滑な実施	500,000
			計 7,500,000

(2) 研究成果の外部発信

本年度発行の『紀要』への論文投稿は12人・13件であった。また、平成30年度の研究業績は〔表5-イ〕の通りである。

〔表5-イ:平成30年度研究業績総括表〕

業績区分	教員数	本数・編数等
著書・論文	10	25
その他の著作	5	5
学会発表	9	16
作品等	3	13
講演会等社会的活動	3	25
委員委嘱等	5	26
受賞	0	0

6. 社会的活動、国際交流に関する事業

(1) 社会的活動に関する事業

① 受託事業

国土交通省観光庁の委託事業である「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」(ツーリズムプロデューサー養成課程)を発展的に継続展開し、700万円の受託事業費を受けるとともに、本事業に係る講座を開講し、募集定員30人に対し33人の受講申込があり、全講義を受講した受講者は30人であった。受講生対象アンケートにおいて講座の「有益性」「刺激的価値」に対し100点満点換算で92.58、90.83の評点を受けるなど高い評価が得られた。

代表者名	委託者名	受託事業名	事業費(円)
小野田 金司	国土交通省観光庁	平成31年度「産学連携による観光産業の中核人材育成・強化事業」ツーリズムプロデューサー養成課程	7,000,000

また、豊岡市商工会から下記事業を受託し、ゼミ学生の積極的な参加により事業を実施した。事業の実施にあたっては現地に数度入っており、委託者からも感謝の声を頂いた。

代表者名	委託者名	受託事業名	事業費(円)
山下 紗矢佳	豊岡市商工会	広域振興等地域活性化事業のうち商工会産学連携支援事業の円滑な実施	500,000

② 生涯学習ニーズへの対応

- 社会人学生の受入れ:50歳以上の社会人を対象とする「シニア50+入試」と「社会人入試」を導入しており、その入学者数と卒業生数の推移は〔表6-イ〕の通りである。

〔表6-イ:シニア入学者数・卒業生数推移〕

年度	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R元
入学者数	16	17	7	10	10	8	11	11	5	2	2	1
卒業生数	—	—	11	8	12	7	8	7	5	9	11	—

- 科目等履修生の受入れ:15人(内10人が前年度からの継続)
- 公開講座の開設・運営:地域社会連携センター及び本学関連の公開講座は、〔表6-ロ〕参照
→受講料については、平成29年度よりすべて無料化
→やむなく中止となった講座が7講座

〔表6-ロ:公開講座収支状況等推移〕

区 分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元
開講講座数	36	30	29	29	13	6	3
受講者数	462	448	425	372	—	—	—
収入(円)	3,792,100	3,379,200	2,967,400	3,179,300	—	—	—
支出(円)	2,986,251	2,845,843	2,360,131	2,629,192	—	—	—
差額(円)	805,849	533,357	607,269	550,108	—	—	—

③ 地域社会との連携・地域社会への貢献

- 施設開放:使用料収入の推移は[表 6-ハ]の通りである。前年度は、約 618 万円の増収であったが、これは飛鳥未来きずな高校への年間を通じた教室等の貸与に関わる使用料金(966 万円)が大部分占めていたが、本年度はそれがなくなるとともに、1 号館の耐震改修工事もあり、貸出を制限したため、ほとんど収入はなかった。

[表 6-ハ:施設貸出に伴う使用料収入推移]

年 度	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元
のべ貸出日数	26	20	29	19	18	18	1
のべ使用団体数	17	10	11	9	10	4	1
使用料収入(円)	5,083,536	4,842,850	7,055,100	6,055,560	4,076,730	10,256,166	13,200

- 地域連携・貢献事業への参加:[表 6-ニ]参照

[表 6-ニ:地域連携・貢献事業一覧]

月/日(曜)	連携・貢献事業内容	協力団体等
4/20(土)	相楽園連携協力事業「ハッサム亭ものがたり第拾話」コンサート開催	大学、短大卒業生有志
4/29(月)	相楽園連携協力事業「つつじ遊山」にてお点前披露	茶道部
5/24(金)～ 6/3(月)	ホテル観察キャンパス開放(期間中の来場者数:2,713 人)	吉岡教授・宇治川ホテル研究部他
5/26(日)	「第 4 回花隈モダンタウンフェスティバル」実施協力(以下のイベント企画・実施) ①こどもワークショップ ②タイムスリップカメラ	総合社会学科行木准教授 2 年生ゼミ学生
6/2(日)	フェリーさんふらわあ「昼の瀬戸内感動クルーズ」送迎演奏	学園吹奏楽団
6/22(土)	相楽園連携協力事業「夏至祭 2019」コンサート開催	吹奏楽部、短大卒業生
7/13(土)	神戸市水の科学博物館連携事業「サマーコンサート」開催	吹奏楽部、短大卒業生
7/23(火)	神戸元町商店街連合会主催「第 38 回元町夜市」清掃ボランティア	観光学科傍嶋教授ゼミ学生
7/29(月)・ 7/30(火)	丹波篠山市福住地区「水無月祭り」(市指定無形民俗文化財)実施協力	歴史文化ツーリズム研究会
8/18(日)	諏訪山地区との連携行事「第十回すわやま盆踊り」吹奏楽部出演	吹奏楽部
8/31(土)・ 9/1(日)	丹波篠山市福住地区「八朔祭り」(市指定無形民俗文化財)実施協力	歴史文化ツーリズム研究会
8/31(土)・ 9/1(日)	神戸市立相楽園との連携行事「にわのあかり 2019」に参加	総合社会学科[建築・インテリアフィールド]の学生
10/26(土)	地域連携行事「秋華祭 2019」にて演奏披露(コミスタ神戸)	吹奏楽部
10/26(土)	相楽園連携協力事業「神戸菊花展」にてお点前披露	茶道部

10/26(土)	神戸市中央区との連携行事「MULTICULTURAL FESTIVAL(多文化交流フェスティバル)」ボランティア参加(東遊園地)	観光学科劉講師ゼミ学生
11/24(日)	トークイベント「サマセット・モームと神戸」開催 ● 講師:楠本利夫氏(元芦屋大学教授) ● コーディネーター:観光学科田中智子准教授	観光学科
12/8(日)	自転車でポイント競う「シクログ」運営サポート(みなとのもり公園:神戸市)	観光文化学科
12/6(金)~ 15(日)	「KOBE ルミナリエ」募金ボランティア活動	学生有志延べ 66 名

- 地域清掃活動:毎月 1 回、学生・教職員有志により地域清掃活動実施

(2)国際交流に関する事業

- ① 海外語学研修:フィリピン(セブ島)(10 人:夏 9 人・春 1 人)、ニュージーランド(1 人)
- ② 海外派遣留学・ピースボート:ウーロンゴン大学(オーストラリア:3 人)、上海外国語大学(中国 1 人)、北京師範大学(中国:1 名)、ピースボート(3 人)
- ③ 外国人留学生の受け入れ:[表 4-イ:外国人学学生在籍状況] 参照

(3)国際交流センターの活動内容

- ① 公式 Facebook への国際交流イベント情報の投稿
- ② イングリッシュクラブの開催(週 3 回、レベル別)
- ③ Game Day の開催(週 1 回)
- ④ 各種交流会の開催(ウェルカムパーティー、ベトナムカルチャーパーティー、ハロウィンパーティー等)
- ⑤ チャイニーズクラブの開催

7. 管理運営に関する事業

(1)学部・学科運営体制

- ① 副学長職は空席ではあったが、学部長、両学科主任等による学長補佐体制により円滑な学部運営に努めた。
- ② 前々年度に委員会等の在り方についても見直しを進め、学長ガバナンスの継続的な確立に努めた。

(2)事務組織体制

「神戸山手学園経営改善計画」の履行に向け、各部署の業務見直しを進めるとともに改善に努めた。留学生の増加に伴い、国際交流センターによる支援体制を強化した。

8. 財務に関する事業

(1)学生納付金収入確保

この数年来、本学の財務体質を改善すべく人件費を含め、教育研究経費と管理経費の削減に努めてきた。しかしながら、支出超過に歯止めはかからず、改善には至っていない。この最大の要因である入学定員確保による学生納付金収入の増加という命題を教職員一丸となって取り組んできたが、令和 2 年度の学生募集において入学定員を確保が確保できたため、収容定員充足率が 100%を超える見通しであり、大学部門のみで考えるなら、ようやく改善の兆しが見えてきた状況である。

(2)補助金等外部資金の確保

① 私立大学等経常費補助金について

一般補助を含め、私立大学等経常費補助金は本学園収入を支える一つの柱である。それだけに、学生納付金収入とともにその確保が本学園の収支改善の大きな命題となっている。長らく収容定員充足率が低迷し、特に、平成 28 年度は大きく減少した。しかし、本年度は収容定員充足率の上昇とともに、回復の兆しが見られるところである。補助金交付額の推移は[表 8-イ]の通りである。

〔表 8-イ:私立大学等経常経費補助金交付額推移表〕

(千円)

年度	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 元
一般補助	51,263	40,801	54,909	37,464	111,581	51,097	69,524	50,220	111,141
特別補助	8,686	12,369	3,951	4,479	12,585	12,055	5,783	23,473	8,855
合計	59,922	53,170	58,860	41,943	124,166	63,152	75,307	73,693	119,996

② 科学研究費補助金等収入について

「5. 研究に関する事業」参照。(間接経費が実質的には収入となる。)

(3) その他の収入確保

本年度は、耐震改修工事の関係もあり、施設貸出による収入状況は、ほとんど得られていない。

(4) 支出の削減

支出予算の策定段階より、集中と選択による編成方針を徹底しつつ教育研究経費と管理経費の見直しを進めた。

9. 自己点検・評価に関する事業

(1) 「教員評価制度」の実施保留

(2) 学生による授業改善のためのアンケート実施

全授業科目について、年 2 回学内ホームページ上において、[授業理解度]、[興味・関心度]、[学力]、[学習量]、[専門性]などの項目を中心とした授業アンケートを実施している。その集計結果を各授業担当教員にフィードバックし授業改善に活用している。

(3) FD 活動・SD活動

次年度からの関西国際大学への「現代社会学部の設置者変更」認可による統合準備のため、関西国際大学主催の以下の PD 研修会や FD 研修会に教員及び事務職員が参加し、理解促進に努めた。

①第 1 回

- 日 時:令和元年 5 月 9 日(木)
- 会 場:本学体育館
- 救急救命処置(心肺蘇生法と AED の使用方法等)に関する講習会
- 講 師:田中 綾子氏(関西国際大学基盤教育機構セーフティマネジメント教育研究センター助教)
- 参加者:62 名

②第 2 回

- 日 時:令和元年 7 月 11 日(木)
- 会 場:本学 4 号館会議室
- テーマ:「関西国際大学の教育プログラム等説明会」
- 講 師:坂中 尚哉氏(関西国際大学教授・高等教育研究開発センター長)
- 参加者:40 名

③第 3 回

- 日 時:令和元年 8 月 21 日(水)・22 日(木)
- 会 場:関西国際大学尼崎キャンパス KUIS ホール
- テーマ:「関西国際大学第 1 回 PD 研修会:重層構造の組織的な教育の仕組みの具現化に向けて」
 1. プログラム①:「将来予想が困難な時代における学びの実践に向けて」
 2. プログラム②:「学修成果の可視化に向けた評価方法の理解に向けてーコモンルーブリックのワーク及び e ポートフォリオの活用について」
 3. プログラム③:招聘講演「学習者の思考を刺激する発問」
 4. プログラム④⑤⑥:ワーク
- 講 師:

1. プログラム①:濱名 篤氏(関西国際大学学長)
2. プログラム②:藤木 清氏(関西国際大学教授・評価センター長)
3. プログラム③:中井 俊樹氏(愛媛大学教授・教育・学生支援機構企画室)

- 参加者:31名

④第4回

- 日時:令和元年9月20日(水)
- 会場:本学4号館
- テーマ:「関西国際大学第2回PD研修会」
 1. プログラム①:「評価と実践等に関するガイダンス」
 2. プログラム②:「ルーブリック」カリブレーションワーク
 3. プログラム③:「今後の学部の方針について」
- 講師:
 1. プログラム①・②:関西国際大学高等教育研究センター
 2. プログラム③:濱名 篤氏(関西国際大学学長)

- 参加者:17名

④第5回

- 日時:令和元年12月25日(水)
- 会場:本学4号館303教室
- テーマ:「関西国際大学・神戸山手大学統合準備FD研修会」
 1. プログラム①:「評価と実践等に関するガイダンス」
 2. プログラム②:「ルーブリック」カリブレーションワーク
 3. プログラム③:「今後の学部の方針について」
- 講師:
 1. プログラム①・②:関西国際大学高等教育研究センター
 2. プログラム③:濱名 篤氏(関西国際大学学長)

- 参加者:34名

⑤第6回

- 日時:令和2年2月13日(木)・14日(金)
- 会場:関西国際大学尼崎キャンパス KUIS ホール
- テーマ:「関西国際大学第3回PD研修会:重層構造の組織的な教育の仕組みの具現化に向けて」
 1. プログラム①:「次年度6学部3キャンパス体制に向けた新たな取組について」
 2. プログラム②:「関西国際大学のアセスメントポリシーに基づいた教育改革の課題について」
 3. プログラム③:招聘講演「大学と地域をつなぐ問題解決プロジェクト(BLP)の仕組とリーダーシップ教育」
 4. プログラム④:招聘講演:「課題発見力・課題解決力の涵養に向けた共愛学園前橋国際大学の取組事例」
- 講師:
 1. プログラム①:濱名 篤氏(関西国際大学学長)
 2. プログラム②:藤木 清氏(関西国際大学教授・評価センター長、坂中 尚哉氏(関西国際大学教授・高等教育研究開発センター長)
 3. プログラム③:日向野 幹也氏(早稲田大学総合研究センター教授)
 4. プログラム④:大森 昭生氏(共愛学園前橋国際大学学長)

- 参加者:37名

⑥第7回

- 日時:令和2年3月10日(火)
- 会場:関西国際大学尼崎キャンパス KUIS ホール等

- テーマ:「関西国際大学 2020 年度事業計画全体説明会」
- 参加者:22 名(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため教職員とも次年度の役職者に限定)

■神戸山手女子中学・高等学校

I. 基本方針

(1) 建学の精神と教育方針

1924 年に創設された本校は、今年、創立 95 年目を迎えた。「自学自習・情操陶冶」の建学の精神を踏まえ、生徒一人ひとりに「確かな学力」を身につけさせ、その一方で「挨拶・感謝・感動・思いやり」を大切にする「人柄の基礎」を育む教育に重点をおき、令和元年度も引き続き、学習面でも情操面でもバランスのとれた健全な中学生、高校生の育成を目指した。

(2) 平成 30 年度までの主な教育経営方針

本校では、平成 25 年度の「中学高校教育経営検討会議」の報告書に指摘のあった 12 項目についての議論を引き継ぎ、「学納金の見直し」「広報専門員の増員」「強化クラブの指定」「選抜方式の見直し」など、さまざまな改革をすすめてきた。

しかし、平成 28 年度及び 29 年度入試において、中学校受験者数、入学者数が減少し、中学募集定員(90 名)を大きく下回る結果となったため、平成 29 年 2 月に「神戸山手女子中学高校 第 2 次教育経営改革推進会議」を設置し、その原因究明と、以下のような方針や改善策をまとめ、実施してきた。

- 1、本校の特色ある教育をアピールする。(英語教育、音楽教育、部活動の活性化など)
- 2、学校説明会やオープンスクールなどのイベントの拡大を図る。
- 3、受験者増・入学者増を図るため、特待制度を拡充する。
- 4、音楽科入試日程の変更と中学生課外レッスンの実施。
- 5、本校教育内容の充実と特色化を図る。

さらに平成 30 年度入試においても、新中学 1 年生の入学者数が 8 名という結果であったことから、平成 30 年 2 月に、専任教職員による「中学校受験者数・入学者数急減対策会議」を設置し、受験者数急減の原因、入学者増の手立てや新たな方策等について検討し、6 月には「次年度入学する中学校受験者数・入学者数確保対策推進懇話会」を開催し、以下のような具体策を得て、実施に移しているところである。

- 1、地域(出張)説明会の実施。(西宮、東灘、神戸西神、垂水、明石、加古川など)

- 2、ICT教育の新たな導入とデモンストレーション。(私学フェスティバル・カルチャー大会(8月)、水の科学博物館でのイベント(9月～)の実施)
- 3、中学生入学時の特待制度の充実整備(特待生制度、音楽基礎講座受講生の優遇入試)
- 4、その他(高校生入学時の特待制度の充実整備、友松会主催イベント等への協力、ICT教育プログラミング講座の拡大)

令和元年度も本校生徒にふさわしい新しい学びのあり方を探りつつ、100周年に向けて大きな一歩を踏み出す年にするべく、以下の事業計画を策定、実施した。

II. 事業計画

1、教育内容に関する事業

(1) 教科指導

① 自学自習

建学の精神「自学自習」に基づく「生徒の自主的な学習習慣」の確立のため、生徒のできる・わかるという感動を大切に、学習に対する意欲関心を高める授業を実現し、また、考査や提出物等により、個々の生徒の理解度を把握することを重視した。

② グローバル教育推進事業

ネイティブ教員による少人数でのアクティブ・イングリッシュ、海外語学研修旅行など、グローバル教育を進め、英語教育の活性化を図った。また、帰国子女の受け入れ対策に取り組んだ。

③ アクティブ・ラーニング

学習指導要領改訂の方向性を見据えて、主体的・対話的で深い学び(アクティブ・ラーニング)の実現に向けた授業改善を行った。また、カリキュラムや評価の見直しをすすめた。

④ ICT教育

校舎内のWifi環境を整え、新中学1年生、高校1年生より、iPadを用いたICT教育を本格実施した。

⑤ 道徳教育

中学校の特別の教科「道徳」を、全ての教員が協力して充実したものにすべく努めた。

⑥ SDGs 実現に向けたESD

SDGs(持続可能な開発目標)実現に向けたESD(持続可能な開発のための教育)の一環として、「TABLE FOR TWO」や「ニホンシシガメの調査及び保全」等をはじめ、人権や環境分野での教育の実践を継続した。

(2) 生活指導

① 人柄の基礎

人柄の基礎としての「挨拶、感謝、感動、思いやり」の指導を重視した。

② いじめの防止

国の「いじめ防止等のための基本的な方針」に基づき、策定した「学校いじめ防止基本方針」にそった指導をすすめ、いじめの防止ならびに早期発見、家庭との連携など適切な対応に努めた。また、「いじめアンケート」を実施して、生徒たちの状況把握につとめ、問題となる事柄には迅速に対応した。また、校内巡回を多く行い、いじめの早期発見に努めた。

③ SNSに関わる問題

スマートフォンなどでのSNS(ソーシャル・ネットワーク・システム)に関わる問題事例や薬物乱用、防犯講習、非行防止などについて、生徒だけに限らず保護者へも啓蒙活動を実施した。

④ 服育講演会

服育講演会などを引き続き実施して、身だしなみについて指導した。

⑤ 公共交通機関内での態度・マナーの向上

教員・生徒共に、通学路や公共交通機関内での態度・マナーの向上に努めた。

⑥ 保護者との連携

保護者との連携を密にし、協力して生徒の指導に当たるため、保護者会での学級懇談、保護者面

談のほか、必要に応じて家庭訪問を実施した。

(3) 進路指導

①進路を自ら選び取る力

「ゆたかに自立した人間性をはぐくむ教育」に基づき、時代の変化に応じて、生徒一人ひとりが自立して、自分の進路を自ら選び取る力を育てた。

②各種検定

GTEC、漢字検定、日本語ワープロ検定など、将来の職業についての学びや、進路先の決定に関わる具体的な学びを、進路指導カリキュラムとして継続して実施した。

③自習室の利用

「自学自習」の習慣や自ら学ぶことの大切さを実感させるため、自習室の利用を一層促した。

④講習

アドバンスト講習(学外講師による講習)、スタンダード講習(本校教員による講習)による学力向上策を継続し、生徒の進路選択、進路実現に努めた。

⑤「勉強合宿」「Study Days」の充実

三木市協同学苑において、高1特進・選抜コース全員+希望者対象の勉強合宿を8月に実施。中2・中3特進コース対象のStudy Daysを7月下旬に実施。積極的に学習に取り組むための基本となる、予習や復習、そして自学自習の習慣を徹底的に身につけるきっかけ作りにする。中2・中3は、学習習慣の確立に加え、キャリア教育の一環としての卒業生を招いての講演を聴く機会を設けた。

⑥「大学訪問」、「卒業生を囲む会」などの実施

進路実績向上のために、進路指導部が主体的に進路指導行事を計画し、学年と協力し実施した。

(4) キャリア教育など特色ある教育

①本校教育の基本「ゆたかに自立した人間性」を育む

「ゆたかに自立した人間性」を育む観点から、社会で役立つ基本的な力をさまざまな角度から養い、生徒一人ひとりが自らの進路を選び取る力を身につけるため、「キャリア教育」を引き続き展開した。

②本校独自の「KEEP手帳」

「KEEP手帳」を用いて、自分自身のスケジュール管理から目標管理を実践させ、将来の夢や目標に向かって計画的に努力していける力を養う「KEEPプログラム」を継続実施した。

③「ことばカプログラム」

「朝の読書」の時間や、漢字検定、英語検定、GTECなどへの取り組み、行事でのプレゼンテーションなどを通して、コミュニケーション力や表現力を高める「ことばカプログラム」を継続実施した。

④「社会探検プログラム」

ボランティア活動や企業研究、製品開発、裁判の傍聴や時事能力検定などへの取り組みを通して、社会に広く目を向ける「社会探検プログラム」を継続実施した。

⑤ワークエクスぺリエンス・プログラム

中学2年生では将来自分の目指す仕事に就けるようにするために、まず「働く」ことをイメージできるように、3日間のワークエクスぺリエンス・プログラムを実施した。

社会探検プログラム名	31実施	実施内容
食育	通年	テーブル・フォー・ツー(全校)、 「食育だより」発行(生徒・保護者向け)など。
博物館見学	随時	神戸市立博物館特別展を鑑賞
	高 1:3月、研修 旅行事前学習	

キャリア学習	高1～3年生	○高校1年 5月:浴衣着付け、5月～6月:華道 6月:茶道、 9月～10月:地産地消、レシピ作り、試食 9月～10月:神戸調べ、 1月:神戸ツアー ○高校2年 4月:ドリームマップ作成、発表 5～7月:ソーシャルチェンジプログラム 9月～12月:甲南リサーチフェスタ準備、プレゼン作成 1～2月:自分の好きなことについて調べよう、まとめと発表 ○高校3年 4～5月:「マイストーリー」プログラム 6～7月:コープ神戸メロンパンコンテストに向けて、プレゼンの作成 9～11月:ソーシャルチェンジプログラム 11～12月:阪神電鉄三宮駅ガラス壁面オブジェ作り
ワークエクスperiences・プログラム	中2: 3月9日～13日 (<u>新型コロナ感染拡大、学校休業のため全て中止</u>)	元町商店街を中心に協力を依頼し、3日間研修をさせていただく予定。 事前学習(1月15日講演会、1月29日、2月12日職場訪問のみ実施)

⑥「食育」

食堂、パン販売業者の協力を得ながら、健全な生活の基本としての「食育」に継続して取り組み、生徒の心身の健康や食文化に関する理解を深め、感謝の心、食品を選択する力等を養った。

⑦「ゆたかプログラム」

人間、平和、性、マナーなど、道德教育の内容を含む本校中学独自の「ゆたかプログラム」を、今後も継続。また、中学生の華道の時間を文化庁の「芸術家の派遣事業」として取り組み、座学・実習共に充実させた。

ゆたかプログラム名	31実施	実施内容
博物館・美術館訪問	随時(年間複数回)	12月19日:京都御所訪問、和菓子作り 3月:県立美術館特別展(中止)
芸術鑑賞	音楽、演劇、古典芸能など	2月19日:兵庫県芸術文化センター音楽鑑賞教室(わくわくオーケストラ(中1))、 5月29日:演劇鑑賞(わくわくピッコロステージ(中学))、 11月6日:全校文化鑑賞会(音楽鑑賞など)
平和学習	研修旅行事前学習など	5月8日:アンネのバラの教会・アンネフランク資料館(中2)、 4月:「生きろ」鑑賞(中3) 9月:「ひめゆりの塔」他二編鑑賞(中2)
異文化体験	海外研修旅行な	1月:韓国文化体験(中1、中2)、

	ど	3月海外研修旅行の実施(高1:3月:シンガポール・ ニュージーランド(延期)、音楽科:ヨーロッパ(7月))
伝統文化体験		6月、7月、12月:華道・茶道体験(中1・2・3)
ものづくり体験		3月:ものづくり体験館訪問(中1)中止
人権学習	年間各1回	10月:車いす体験(中1・2)、 10月:聴覚障害者講演・手話講座(中3)

(5) 学校行事

①「文化祭・バザー」「体育大会」等

「文化祭・バザー」「体育大会」等の学校行事については、平素の学習の成果を生かし、生徒全員が役割を分担し、積極的に協力し合って取り組むよう指導した。

②研修旅行

中学3年次、高校1年次の研修旅行、音楽科研修旅行(隔年実施、令和元年度は実施)については、海外の言語や文化に直接触れる機会として、今後も充実したプログラムを準備する。

	31実施	行き先など
中3研修旅行	5月19～22日	沖縄平和学習
高1研修旅行	3月(新型コロナ 感染拡大のため 全て延期)	北海道スキー研修旅行、シンガポール国際理解研修旅行、またはニュージーランド語学研修旅行
音楽科研修旅行	7月	欧州研修旅行。ウィーンにて演奏会(教会コンサート)実施

③音楽に関する行事と情操教育

音楽科生徒の各種演奏会・発表会をはじめ、山手音楽祭や合唱コンクール、選抜高校野球大会での大会歌合唱等、音楽に関する行事については、音楽を情操教育の要とする本校の大切な行事として今後も継続実施する。

音楽行事名	31実施	行事内容
山手音楽祭(隔年実施)	6月	音楽系部活動と音楽科による演奏会(31年度は実施しない)
中学校音楽祭	11月27日	中学生による音楽祭
定期演奏会	10月	音楽科生徒全員出演による演奏会
サマーコンサート	8月	音楽科の夏季合宿の成果発表
JAMコンサート	中止	音楽科2年生によるアートマネジメント発表
卒業演奏会	中止(延期)	音楽科3年生による演奏会
甲子園コーラス	中止	春の選抜高校野球大会開会式での、高校生全員による大会歌の合唱

④文化鑑賞会

演劇や音楽演奏、古典芸能など、芸術・文化を理解し鑑賞することによって、生徒の「情操陶冶」に寄与する。

	演目	日時	会場
全校文化鑑賞	打楽器アンサンブル(音楽科 や吹奏楽部とのコラボ)	11月6日	本校

(6) 生徒会活動、部活動

①生徒会活動

生徒会組織の一員として、生徒会活動を通してよりよい学校づくりに協力し、集団の中での役割を果たすことのできる自主的・実践的態度を養うよう努めた。

②クラブ活動

スポーツや文化活動に親しませ、責任感、連帯感、学習意欲の向上に繋がるクラブ活動の充実を図った。また魅力的なクラブの強化という観点から、特定のクラブに重点を置いた指導を行った。

強化部活動名	部員数	月日	令和元年度の主な活動・成績
吹奏楽部	63	4月3日	神戸山手大学入学式演奏
		4月5日	新入生オリエンテーション歓迎演奏
		4月20日	兵庫県吹奏楽連盟総会 招待演奏
		4月29日	神戸市吹奏楽祭 出演・運営補助員
		6月2日	サンフラワー号出航演奏
		6月16日	吹奏楽部第二回定期演奏会
		7月14日	港まつり オープニングセレモニー演奏
		7月21日	吹奏楽交歓会 本校主催
		7月25日	市内8校合同練習会 本校主催
		7月27日	兵庫県吹奏楽コンクール神戸地区大会高校 A 金賞 (地区代表)
		7月28日	兵庫県吹奏楽コンクール神戸地区大会運営補助
		7月29日	兵庫県吹奏楽コンクール神戸地区大会運営補助
		8月6日	第101回全国高等学校野球選手権大会開会式演奏 (甲子園球場)
		8月10日	兵庫県吹奏楽コンクール 高校 A 銀賞
		8月18日	私学フェスティバル運営補助
		9月8日	兵庫県マーチングコンテスト運営補助
		10月14日	「波濤を越えて」招待演奏
		11月3日	神戸市吹奏楽祭出演、運営補助
		11月10日	兵庫県総合文化祭出演
		11月17日	流通科学大学大学祭招待演奏
12月15日	私学連合音楽会出演		
12月26日	兵庫県アンサンブルコンテスト神戸地区大会(2 チーム出演) ○金管8重奏 金賞代表、神戸市長賞 ○木管8重奏 金賞代表		
1月19日	兵庫県アンサンブルコンテスト ○金管8重奏 金賞 ○木管8重奏 銀賞		
2月2日	オリエンタルプラザホテル イベント出演		

陸上競技部				
	26			
大会名(開催場所)	期日	種目	順位	備考
兵庫リレーカーニバル(兵庫)	4/20 ~21 (土~ 日)	4×100mR	第2位	

兵庫インターハイ (兵庫)	5/31 ~6/ 2(金 ~日)	100m	優勝	近畿インターハイ出場(大阪)
		100m	第3位	近畿インターハイ出場(大阪)
		100m	第4位	近畿インターハイ出場(大阪)
		400m	第5位	近畿インターハイ出場(大阪)
		800m	第3位	近畿インターハイ出場(大阪)
		100mH	第3位	近畿インターハイ出場(大阪)
		走高跳	第4位	近畿インターハイ出場(大阪)
		4×100mR	第2位	近畿インターハイ出場(大阪)
		4×400mR	第5位	近畿インターハイ出場(大阪)
近畿インターハイ (大阪)	6/13 ~16 (木~ 日)	100m	第6位	全国インターハイ出場(沖縄)
		100m		準決勝進出
		100m		準決勝進出
		400m		準決勝進出
		800m	第3位	全国インターハイ出場(沖縄)
		100mH		準決勝進出
		走高跳		
		4×100mR	第6位	全国インターハイ出場(沖縄)
		4×400mR		
兵庫陸上競技選手 権大会(兵庫)	7/6 ~7 (土~ 日)	100m	第2位	近畿陸上競技選手権大会出場 (大阪)
		100m	第5位	近畿陸上競技選手権大会出場 (大阪)
		400m	第6位	近畿陸上競技選手権大会出場 (大阪)
		800m	第3位	近畿陸上競技選手権大会出場 (大阪)
		100mH	第5位	近畿陸上競技選手権大会出場 (大阪)
		100mYH	第2位	近畿陸上競技選手権大会出場 (大阪)
		4×100mR	優勝	近畿陸上競技選手権大会出場 (大阪)
		4×400mR	第3位	近畿陸上競技選手権大会出場 (大阪)
全国インターハイ (沖縄)	8/4 ~8/ 8(日 ~木)	100m		準決勝進出
		800m		
		4×100mR		準決勝進出
兵庫ユース(兵庫)	8/20 ~22 (火~ 木)	100m	優勝	近畿ユース出場(和歌山)
		200m	優勝	近畿ユース出場(和歌山)
			第3位	近畿ユース出場(和歌山)
		400m	第4位	
		100mH	第5位	
走高跳	第3位	近畿ユース出場(和歌山)		

		走幅跳	第2位	近畿ユース出場(和歌山)
		走幅跳	第8位	
		三段跳	第4位	
		三段跳	第6位	
		4×100mR	第2位	近畿ユース出場(和歌山)
		4×400mR	第4位	近畿ユース出場(和歌山)
全国選抜大会(大阪)	8/31 ~9/1(土 ~日)	ST		
		ST		
		ST		
		600m	第6位	
		100mYH		
		100mYH	第8位	
近畿選手権大会(大阪)	9/7 ~8(土 ~日)	100m	第3位	
		100m		
		400m		
		800m		
		100mH		
		4×100mR	優勝	
		4×400mR		
近畿ユース(和歌山)	9/13 ~15(金 ~日)	100m	第3位	
		200m	第2位	
		200m		
		走高跳	第4位	
		走幅跳		
		4×100mR	第5位	
		4×400mR		
国民体育大会(茨城)	10/4 ~8(金 ~火)	100m		少年A
		100m		少年B
		4×100mR	第7位	兵庫県代表(第4走)
			第7位	兵庫県代表(第1走)
U18・U20日本陸上競技選手権大会(名古屋)	10/18 ~20(金 ~日)	100m		
		100m		
		800m		
		100mYH		
		4×100mR		
日本陸上競技選手権リレー競技大会(北九州)	10/26 ~27(土 ~日)	4×100mR		
北九州リレーカーニバル(北九州)		100m	第7位	

日本室内陸上競技大会(大阪)	2/1 ～2 (土～ 日)	60m	第7位	
		60mYH		

	令和元年度全国大会出場部活動	実施日	場所・会場
1	マンドリン・ギター部 ○第49回全国高等学校ギター・マンドリンコンクール出場 ○第43回兵庫県高等学校総合文化祭器楽・管弦楽部門出場	R1年7月25～26日 R1年11月17日	大阪府泉佐野市 エブノ泉の森ホール 淡路市立しづかホール
2	写真部 ○兵庫県高等学校文化連盟写真専門部神戸支部予選 入選5 佳作4 ○第43回兵庫県高等学校総合文化祭写真専門部進出作品なし 佳作9 ○全国総文 出品参加 (30年度県惣分特薦により推薦されたもの)	R1年7月27～8月1日	佐賀県嬉野市

2. 教育の実施体制に関する事業

(1) 学科・コース・学年運営について

①アクティブ・ラーニング

50分授業への移行を契機に、アクティブ・ラーニングをはじめとして生徒が主体的に取り組めるスタイルの授業を増やした。

②少人数指導

中学校では、在籍者数の減少に応じたきめ細かい授業を効果的に行えるよう、カリキュラム上の配慮を行った。

③コースの特性に応じた授業

高等学校普通科では、コースの特性に応じた授業を行えるよう、評価の方法などについて改善を進めた。

④音楽科の校外演奏活動への参加

高等学校音楽科では、音楽コンクールや、校外での演奏活動に積極的に参加した。また、中央区・神戸市と連携し、神戸の音楽文化の発信源となるよう活動に努めた。

(2) 教職員研修の実施

①全職員対象の研修

専任・常勤教員だけでなく非常勤・事務職員についても、教育職員としての研修を効果的に実施した。

②教育者としての意識の向上

体罰防止、個人情報の扱い、ハラスメント問題、特別支援教育などについての教職員研修を実施し、教育者としての意識向上とモラルアップを図った。

研修名	(参考)H31実施	研修内容
新任者研修	4/2, 5/7, 7/3	服務、校務運営全般、学級運営ほか
職員研修	5/16	iPad研修
職員研修	8/26	神戸山手大学長講話
教員研修	8/22, 9/9, 8/26	授業アンケート分析、品川女子学院の教育

③「いじめ防止対策委員会」

「いじめ防止対策委員会」を置き、職員会議、学年会、生徒部などとの連携をより深めた。また、必要に応じて外部専門家を活用したり、いじめ防止に関する教員研修を継続実施することとした。

④「進路指導教員研修」

校内「進路指導教員研修」を定期的に行うなど、進路指導実績・大学合格実績の向上に向けて中高全体で意識的に取り組んだ。

(3) 進路指導について

①大学合格者数の数値目標

- 近畿の国公立を中心に地方国公立大学 10名
- 関西学院大学を中心に関関同立 30名
- 甲南大学を中心に産近甲龍 60名
- 音楽科においては、進学者実人数1割の国公立大学合格を目指す。

②併設大学

併設大学との高大連携の充実を図る。併設大学へ、10名以上の進学を目指す。(※令和2年度：関西国際大10名合格)

	令和2	令和元	H30	H29	H28	H27	H26	H25	H24
(ア) 国公立大	6	8	5	5	5	3	4	5	3
(イ) 関関同立	7	8	13	10	26	17	13	13	18
(ウ) 産近甲龍	21	20	21	21	43	24	30	34	21
(エ) 音楽科 国公立	1	4	2	1	3	6	1	1	3

※令和2年3月31日現在

③難関私立大学との連携

併設大学以外の著名な難関私立大学（甲南大学、関西大学）とも連携を強化し、教育提携などを通じて、本校生の卒業後の進路を充実させる。特に、甲南大学とは法学部との協定関係を他学部にも広げられるように努めた。

甲南大学・神戸山手女子高等学校接続プログラム (※法学部との協定校推薦希望者は参加必須プログラム)	
1 学年	6月:岡本キャンパス見学、※法学部模擬講義 7月:ポートアイランドキャンパス見学、模擬講義
2 学年	6月;本校卒業生との交流会 8月:法学部体験講義※ 12月:西宮キャンパス見学、模擬講義
3 学年	6月:本校卒業生との交流会 7月:法学部面談※

④進路指導実績の向上

指定校推薦入試においては、難関大学など重点大学の推薦枠を満たすよう指導する。また、進路実績向上のために、進路指導部が主体的に進路指導行事を計画し、学年と協力し実施す

る。令和元年度に実施した以下の進路指導行事は継続する。

中2: Study Days、キャリア講演会
 中3: Study Days、キャリア講演会
 高1: 勉強合宿、関大システム理工学部オープンラボ参加
 高2: 適性検査、マイナビ進路の味方 Live、卒業生を囲む会、分野別説明会、関大システム理工学部オープンラボ参加
 高3: 卒業生を囲む会、関大システム理工学部オープンラボ参加

⑤進路講演会

保護者の進路意識を高めるために、保護者対象の講演会の充実を検討する。(平成30年度は、高2でファイナンシャルプランナーによる講演会、教育コンサルタントによる講演会を実施)

3、生徒募集・広報活動に関する事業

(1) 中高入試・生徒募集

①魅力ある学校づくり

魅力ある学校づくりが入学者増には不可欠である。そのため、受験生やその保護者のニーズにあわせるべく、カリキュラム改定とコース再編は避けることができない。それまでの広報活動は、現状を維持しながら、入学者増を目指すものとした。

②強化クラブと特待生制度

陸上部と吹奏楽部の強化クラブを軸とした高校募集は、大きな効果を発揮している。それ以外の入学者増につなげるものとして、特待生制度の拡充を継続した。

③山手のファンにする工夫

本校に来校した生徒と保護者をファンにする、その繰り返しをいかに広げることができるかをベースに、募集イベント、広報活動を実施した。

	学科	定員	志願者	入学者	内部進学者	入学者合計
高 校	普通科	140	123 (△50)	68	13	81
	音楽科	30	27 (△1)	13	1	14
	計	170	150 (△51)	81	14	95
中	中学校	90	58 (△6)	17		17
	合計	260	208 (△57)	98	14	112 (△29)

(2) 広報イベント・説明会

①イベントの実施時期と内容の見直し

小学生対象のわくわく体験スクール、中学生対象のオープンスクールの実施時期と内容を見直した。わくわく体験スクールは、6月と10月、オープンスクールは7月と11月で検討。今以上の生徒主体のイベントとし、受験生と共感できる、保護者が娘を通わせたいと思えるイベントになるよう努めた。

②ホームカミング・デー

OGならびに地域の小中学生を対象として、「みなと神戸花火大会」当日に、ホームカミング・デーを実施した。

③中学受験のためのプレテストや解説会

中学受験のためのプレテストや解説会を単独のイベントとし、6年生とその保護者が集中して参加できるイベントとして計画した。

④中学生対象の説明会と入試解説

中学生対象の説明会(高校入試説明会)は、1時間程度の説明会を継続する。また、ひとつのコーナーになっている入試解説を、説明会とは完全に分け、集中して3教科の受験対策ができるイベントとして独立させ、別の日程として設定した。

⑤文化祭・バザーの活用

文化祭・バザーは、来校して見てもらうだけでなく、本校の説明等の説明会の要素を組み込むイベントとして対外的に広報する。

⑥「英語小断コンテスト」

「英語小断コンテスト」などを通してグローバル化の取り組みを一層進めるとともに、広報に努める。

⑦メディアにとりあげられる運営努力

テーブル・フォー・ツーや主権者教育、N I E (Newspaper In Education) などの取り組みを中心に、引き続き、新聞・雑誌・テレビに取り上げてもらえるような形で各種事業を運営する。

(3) パンフレット等広報媒体

①ツール制作

明るく、元気なイメージを出せるような、ツール制作を心がける。

②ネット広告

紙媒体広告からネット広告への移行を考え、試行する。

4. 生徒支援に関する事業

(1) 不登校への対応

小学校・中学校時代に不登校傾向にあって入学してくる生徒や、思春期の悩みを持つ生徒に応えるためにスクールカウンセラー制度を継続し、教職員がカウンセリングマインドをもって生徒と接することが必要である。

(2) 特別支援教育

①特別支援教育

障がいの有無やその他の個々の違いを認識し、それぞれが生き生きと活躍できる共生社会づくりのため、特別支援教育を推進する。

②サポーターの活用

障害のある生徒の学校生活を支援するため、サポーターを活用する。

(3) 特待生制度

①ツール作成

高校受験の特待生制度を周知するためのツールを作成し、受験生、入学生を増やすよう努めた。

②周知徹底

拡充した中学校高校受験の特待生制度を一層周知徹底し、受験生、入学者を増やすよう努めた。

(4) 奨学金制度

①育友会・友松会との連携

育友会・友松会との連携のもと、奨学金制度の効果的運営に努めた。

②ファミリー入学奨学金制度

ファミリー入学奨学金制度の広報に努めた。

(5) 子供の安全対策

①登下校ミマモルメ

子ども安全連絡網(緊急連絡網)に替わって、平成27年度からは阪神あんしんサービス「登下校ミマモルメ」による一斉メール配信を利用した。

②登下校指導

登下校の安全対策のため、登下校指導を継続した。

5. 社会的活動、国際交流に関する事業

(1) 社会的活動

① 校外活動の推進

クラブ活動やコンクールへの参加など校外での活動を推進する。多くの教科においても、積極的に進めた。

② 顕彰

地域へのボランティア活動、清掃、募金活動、音楽科の校外での演奏活動などのほかに、皆勤賞等個人の活動の顕彰を行った。

(2) 国際交流

① 姉妹校や協力校との連携

28年度に落ち込んだ留学生数は29年度に盛り返し、30年度も順調に推移している。短期・長期ともに姉妹校や協力校などとの連携を強め、一層の充実をはかりたい。

○令和元年度実績

in bound	派遣元	期間	備考
高校2年	メキシコより	H30.8～R1.7	ロータリークラブ
高校2年	ポルトガルより	H30.8～R1.7	AFS
高校2年	タイより	H30.8～R1.7	WYS
高校2年	ベルギーより	H30.8～R1.7	ロータリークラブ
高校2年	韓国より	R1.8	神戸市
高校1年	ミャンマーより	R1.8～R2.3	AFS
高校1年	ベルギー	R1.8～R2.3	ロータリークラブ

out bound	派遣先	期間	備考
高校3年4組	ハンガリーへ	H30.8～R1.6	ロータリークラブ
高校2年3組	ベルギーへ	H30.8～R1.7	ロータリークラブ
高校2年3組	韓国へ	R1.8	神戸市
高校2年3組	ベルギーへ	R1.8～R2.3	ロータリークラブ
高校2年3組	ニュージーランドへ	R1.6～R2.3	私費

② 韓国との交流事業

神戸市こども家庭局主催「韓国・大邱市 青少年親善協力交流事業」「韓国・仁川市 青少年姉妹都市交流事業」への参加。

③ 語学研修旅行

31年度より、中学の研修旅行を沖縄に一本化し、カナダは語学研修に置き換える。

④ 交換留学生の受け入れ

本校に在籍する交換留学生にも、国際交流プログラム等を通じて引き続き積極的に本校の生徒たちに関わらせ、グローバルな人材育成を進める。

⑤ ヤングアメリカンズのアウトリーチ事業

ヤングアメリカンズのアウトリーチ事業(ジャパンツアー)に協力。

⑥ TFT(テーブル・フォー・ツー)

2年連続で全国一の表彰を受けた TFT(テーブル・フォー・ツー)活動を継続実施する。

6. 管理運営に関する事業

(1) 管理運営組織

①校務運営組織

ICT教育推進委員会設置、探究学習推進委員会の設置など、校務運営組織を次年度に向けて新しく見直した。

②諸会議の運営

諸会議の運営においては、事前に議題や資料提示を行い、効率的化に努めた。

③データの入力と点検確認

成績処理を含む諸データの入力や、諸文書の内容についての点検確認を慎重に行った。

④管理システム

生徒情報管理・成績管理・入試広報データ管理・出張及び諸手当事務処理などの管理システムを随時見直し、効率良い学校運営を目指した。

⑤安全管理の徹底

防災・健康・情報管理面での安全管理の徹底を図る。特に巨大地震・津波に伴う基本的な学校の対応体制を整備し、指導内容のプログラムを作成することとした。

(2) 建物・設備・備品の整備・改善

①ICT教育推進

ICT教育推進のための整備を実施する。

②消防設備

消防設備の改修を実施した。

③校内施設の安全・快適チェック

校内施設の安全・快適チェックを行い、対策を協議した。

④テニスコート整備等

ソフトテニス部の活動再開のため、テニスコートを整備した。
環境美化のため、生徒用靴箱を更新した。

(3) 就学支援金制度等の実施

①申請給付事務等の処理

私立高校生徒を支援する就学支援金や授業料軽減補助・奨学給付金の申請給付事務等を、正確かつ迅速な処理につとめた。

7. 財務に関する事業

①経費削減

消費税の改訂(8%→10%)に伴う諸経費の増額が見込まれるなか、さらなる経費削減に努めた。コピーの枚数の制限に努め、省エネを意識しながら高熱水費の抑制に努めた。

②会計事務の適正化

商品購入にあたっては、少額であっても、可能な限り見積もり合わせを行う。また、仮払い、立替払いについては、緊急性、必要性等を精査して行うよう努めた。

③ふるさと納税の活用

神戸市が実施するふるさと納税を活用した私立学校助成を有効に活用する。

8. 自己点検・評価に関する事業

(1) 学校評価

教育活動とその他の学校運営において、具体的な目標を設定し、取り組みと達成状況について、年度末に保護者生徒からアンケートを採り、教員の「自己点検評価」とあわせて各分掌で検討し総括したものを、理事会の承認を経てホームページで公表することによって、保護者、地域住民から信頼される学校づくりを進めていく。

(2) 自己点検評価

アンケートを年間2回行い、各教員が学校の教育目標に沿った教育活動ができているかどうか、自己の教育力の向上を図れているか、その結果、学校という集団がどのように変化したのかを検証し、教育活動の充実に努めた。

(3) 授業満足度アンケート

「授業満足度アンケート」は、各教科の課題解決と教員の指導力の向上に寄与するためのものであり、各自のアンケート結果・意思表示シートなどを校内の教員に公開し、各教科で検討ののち、改善目標を明確にしたうえで研究授業を実施している。経費節減のため、平成30年度より実施回数を1回に減じており、令和元年度も同様の形態で実施した。

財務の概要

1. 決算の概要

平成元年度決算は、当年度収支差額で5億6百万円の支出超過となったが、前年度繰越収支差額が46億2百万円あり、基本金取崩額が2億65百万円となったため、翌年度繰越収支差額は48億43百万円となった。なお、「貸借対照表」の「負債」は、退職給与引当金等で長期及び短期の借り入れは行っていない。

〔事業活動収支計算書〕

(単位:百万円)

事業活動収支計算書

事業活動収支計算書は、事業活動収入と事業活動支出の内容と均衡を明らかにしようとするものである。

予算対比で見ると、

事業活動収入計(予算15億98百万円に対して決算16億18百万円)は20百万円の増収となった。

一方、事業活動支出計(予算21億1百万円に対して決算21億3百万円)では、2百万円の支出増となった。

その結果、基本金組入前当年度収支差額は4億85百万円の支出超過となった。基本金組入額合計は21百万円であり、当年度収支差額は23百万円好転し、5億6百万円の支出超過となった。

		勘定科目	補正予算	決算	差異
教育活動収入の部	収入の部	学生生徒等納付金	1,082	1,093	11
		手数料	3	3	0
		寄付金	7	8	1
		経常費等補助金	353	353	0
		付随事業収入	10	10	0
		雑収入	58	60	2
		教育活動収入計	1,513	1,527	14
	教育活動支出の部	支出の部	人件費	1,187	1,185
		教育研究経費	537	523	-14
		管理経費	113	106	-7
		徴収不能額等	0	0	0
		教育活動支出計	1,837	1,814	-23
		教育活動収支差額	-324	-287	37
教育活動外収入の部	収入の部	受取利息・配当金	0	0	0
		その他の教育活動外収入	0	0	0
		教育活動外収入計	0	0	0
	支出の部	借入金等利息	0	0	0
		その他の教育活動外支出	0	0	0
	教育活動外支出計	0	0	0	
		教育活動外収支差額	0	0	0
		経常収支差額	-324	-287	37
特別収入の部	収入の部	資産売却差額	0	0	0
		その他の特別収入	85	91	6
		特別収入計	85	91	6
	支出の部	資産処分差額	220	255	35
		その他の特別支出	34	34	0
	特別支出計	254	289	35	
		特別収支差額	-169	-198	-29
		[予備費]	10		-10
		基本金組入前当年度収支差額	-503	-485	18
		基本金組入額合計	-26	-21	5
		当年度収支差額	-529	-506	23

資金収支計算書

資金収支計算書は、学園の1年間の諸活動に伴う資金の収入と資金の支出を明らかにし、支払資金の顛末を表すものである。

予算対比で見ると、

収入の部、支出の部とも合計(予算 32 億 59 百万円)に対して決算 32 億 53 百万円)は 6 百万円の減少となった。

この結果、翌年度繰越支払資金は 1 億 66 百万円となり、82 百万円増加した。これは、当年度収入合計で 6 百万円減少し、当年度支出合計で 88 百万円減少したことによる。

貸借対照表

貸借対照表は、当該年度末の財政状態を表している。短大の募集停止に伴い、図書を除却したため、基本金が減少した。

〔資金収支計算書〕

(単位：百万円)

収入の部	補正予算	決算	差異
学生生徒等納付金収入	1,082	1,093	11
手数料収入	3	3	0
寄付金収入	7	7	0
補助金収入	438	438	0
資産売却収入	1,400	1,400	0
付随事業・収益事業収入	10	10	0
受取利息・配当金収入	0	0	0
雑収入	99	101	2
前受金収入	55	46	-9
その他の収入	242	233	-9
資金収入調整勘定	-386	-387	-1
当年度収入合計	2,950	2,944	-6
前年度繰越支払資金	309	309	0
収入の部合計	3,259	3,253	-6
支出の部	補正予算	決算	差異
人件費支出	1,221	1,217	-4
教育研究経費支出	417	402	-15
管理経費支出	109	102	-7
施設関係支出	170	179	9
設備関係支出	34	34	0
資産運用支出	1,200	1,200	0
その他の支出	200	198	-2
[予備費]	30		-30
資金支出調整勘定	-206	-245	-39
当年度支出合計	3,175	3,087	-88
翌年度繰越支払資金	84	166	82
支出の部合計	3,259	3,253	-6

〔貸借対照表〕

(単位：百万円)

資産の部	R1決算	30決算	増減
固定資産	6,034	6,224	-190
有形固定資産	6,019	6,180	-161
特定資産	0	0	0
その他の固定資産	15	44	-29
流動資産	362	674	-312
資産の部合計	6,396	6,898	-502
負債の部	R1決算	30決算	増減
固定負債	639	592	47
流動負債	338	402	-64
負債の部合計	977	994	-17
純資産の部	R1決算	30決算	増減
基本金	10,262	10,506	-244
繰越収支差額	-4,843	-4,602	-241
純資産の部合計	5,419	5,904	-485
負債の部及び純資産の部合計	6,396	6,898	-502